

沖縄県平和祈念資料館だより

沖縄県平和祈念資料館の「平和博物館」としての役割

県民総動員され地上戦の中で生死を体験をした沖縄の人々の戦争体験、そしてゼロから出発した戦後復興の取り組みは、沖縄県民に強い平和意識を醸成しました。

沖縄県平和祈念資料館の設立理念には、「沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人々に私たちの心を訴え、もって恒久平和の樹立に寄与するため」と設置の目的が謳われています。新館開館から9年、旧館から数えると34年の歳月が過ぎ、この間の観覧者は延べ約615万人になります。展示活動等を通して、これら多くの方々に沖縄戦の実相を伝え、戦争や平和について考える場を提供するとともに、平和の尊さを発信してきた当館は、「平和博物館」として大きな役割を果たしています。

次年度に新館10周年の節目を迎えることから、「平和博物館」としての活動をさらに幅広く展開したいと考えていたところ、JICA 沖縄国際センターが手を貸してくれました。JICA の“地域提案型草の根技術協力事業”に、当館が提案した「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」が採択され、カンボジア政府や事業のパートナーとなるカンボジア国立トゥール・スレン虐殺博物館 (TSGM) との調整を経て、向こう3カ年間の事業が始動することになりました。

ポル・ポト政権下で行われた住民虐殺の実態を展示するTSGMは、ポル・ポト政権崩壊30年の時を経て、平和の実現に資する「平和博物館」への転換を模索しているところでした。今回提案した「『平和博物館』協力」事業は、(TSGM) が「平和博物館」として活動していくための人材育成に当館が協力するものです。

同館職員3名を1ヶ月間、当館に招聘し、当館が34年の間で培った「平和博物館」活動のノウハウを伝えます。同時に当館もカンボジア現代史における住民の悲劇を学ぶことを通して、平和の尊さの共同発信につなげ、当館設立理念の一層の実現をめざしたいと考えています。



沖縄県平和祈念資料館
館長 大川 芳子

第19回

「児童・生徒の平和メッセージ」

図画部門最優秀作品



小学生の部
竹富町立西表小学校3年 岡田慎ノ介
「自然を守る平和の絵」



中学生の部
南風原町立南星中学校3年 金城由季乃
「祈り」



高等学校の部
沖縄県立開邦高等学校3年 田場彩乃
「祈り」

平成21年度事業

1. 子ども・プロセス企画展

〔趣旨〕

未来を担う子どもたちが、積極的に平和を愛する心を育むためには、20世紀に起きた大きな戦争を反省し、地球に住む人々がお互いに手を取り、仲よく生きていく時代を築いていくことが大切です。

この企画展は、子ども・プロセス展示室の内容を補足・発展させる取り組みとして、沖縄戦や人権、国際理解などをテーマに、「ひろば・ゆいまーる」を利用した展示会です。今年度は、法務省の受託事業を含めて5回開催予定です。

○第1回は、「児童・生徒の平和メッセージ秀作展」のテーマで、4月20日(月)から5月20日(水)にかけて開催しました。これは、「第19回児童・生徒の平和メッセージ展」の告知もかねて、過去3カ年の「図画・作文・詩」の最優秀および優秀作品を展示しました。この展示を通して、「平和と命」について考える機会を提供することができました。



展示風景

○第2回は、「沖縄戦と子どもたち」をテーマにして、6月1日(月)から7月10日(金)にかけて開催しました。沖縄戦では、多くの子どもたちが命を失いました。今回の展示では、戦前・戦中・戦後の子どもたちに焦点をあて、当館が所蔵する沖縄戦関連の写真資料や実物資料、さらに沖縄戦の絵をパネル化して展示しました。子どもの目線にあった展示で、戦争と平和を考える機会を提供することができました。



展示風景

○第3回は、「国際理解を深めようー核の廃絶を求めてー」のテーマで、8月1日(月)から9月10日(木)にかけて開催します。原子爆弾による被害状況をあらかわすパネルや実物資料を展示し、ヒロシマとナガサキさらに、沖縄県が取り組んでいることを紹介します。この展示会をきっかけに、原爆のことについて調べたり、平和に暮らす事の大切さを考えることを目標としています。

○第4回ならびに第5回は、法務省受託事業を活用して、「人権」に関するテーマで、子どもにも理解することのできる「なぜ?なぜ?」の視点で、子ども向け展示を開催します。第4回は11月1日(日)から12月25日(金)まで、第5回は年明けの1月20日(水)から2月28日(日)の期間で予定しています。人権を取り巻く問題に視野を広げ、みんなで「生きる」ことについて考えてみましょう。

企画展「新収蔵品展ー平成20年度新収蔵資料ー」を終えて

この企画展は、前年度で寄贈寄託ならびに収集した新たな収蔵資料を県民財産としての公開を趣旨として開催しました。昨年度は、23名の皆様から45件210点の寄贈寄託をいただきました。台湾疎開決定に伴う転出証明書や琉球円覚寺1/10模型、そして荒井退造警察部長のものと思われる万年筆をはじめとする140点の資料を公開しました。

また、関連企画として2つの講座を開催しました。これらの講座は、寄贈資料を通して深い関わりのある人々の活動や実践を紹介しました。

6月16日(火)から7月31日(金)にかけて開催したところ、多くの県内外の方々が摩文仁を訪れ観覧いただきました。寄贈者の皆様のご厚意に改めて感謝申し上げます。



会場風景



会場風景



壕プロジェクトの皆さんによる講話



賀数芳範さんによる講話

「ひびけ!! 平和創造のうた」 行事報告

沖縄戦を学ぶことを通し、平和創造のうたを摩文仁から発信し、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶことを目的に、「ひびけ!! 平和創造のうた」【主催同実行委員会（委員長嘉納英明）】が6月20日（土）午後1時～5時まで当館で開催されました。



沖縄県少年少女合唱連盟（外間理事長と阪本副理事長）、平良牧港小学校教諭、当館館長等で実行委員会を組織。また名城大学、文教楽器、オキコ、森永乳業、丸仁、ジムキ文明堂、光文堂印刷の企業・団体の協賛をいただきました。梅雨明けの当日、名護・金武町・うるま・栄光メイツ・浦添・首里・南風原・糸満の8つの少年少女合唱団と牧港・神森・古蔵・糸満小学校4校など13団体（約300名）が参加し、沖縄戦の学びを通して平和の礎へ向け、平和創造の歌を高らかに唱和しました。

第19回 児童・生徒の平和メッセージ展報告

1 趣旨・展示内容

今回で、19回目の開催を迎える「児童・生徒の平和メッセージ展」は当館の主要事業のひとつで、県内の小、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒に、日常生活の中で「平和の心や意識」を育み、県内をはじめ、国内外に平和のメッセージを発信するため、沖縄県教育委員会との共催事業として実施しています。

今年は県内の157校から、過去最高となる4,072点の作品の応募がありました。これら多くの作品の中から、見事に入選した優秀作品82点を当館の展示会を皮切りに、八重山平和祈念館、県庁・県民ホールとの3会場で巡回展示いたしました。

図画・作文・詩のいずれの作品も、児童・生徒のみなさんの平和への純粋な願いが込められており、「やさしさ」、「たくましさ」、「みずみずしい感性」にあふれた作品の数々は、子どもから大人まで展示会に来られた多くの方々の心に強い感動と感銘を与えていました。



メッセージ展のテープカット（本館）

2 開催期間

- 沖縄県平和祈念資料館 6月20日（土）
～7月8日（水）
- 八重山平和祈念館 7月14日（火）
～7月28日（火）
- 県庁1階（県民ホール）8月10日（月）
～8月14日（金）



展示風景（八重山会場）

第19回「児童・生徒の平和メッセージ」入選者一覧

■図画の部入選者

小学校の部 (10名)	
最優秀賞	岡田慎ノ介 (西表小3年)
優秀賞	山城 麻衣 (兼城小5年) 新垣 鈴夏 (とよみ小6年)
優良賞	市川 晶悠 (西表小1年) 翁長 佳八 (宇栄原小2年) 宮平 優花 (さつき小4年) 玉寄萌音美 (兼城小5年) 早川 菜穂 (伊良波小6年) 山城 綾 (上田小6年) 仲間 吉彦 (とよみ小6年)
中学校の部 (10名)	
最優秀賞	金城由季乃 (南星中3年)
優秀賞	波平裕芽乃 (古堅中3年) 喜舎場愛月 (石垣中3年)
優良賞	上江洲実香 (与那原中1年) 新垣和圭子 (具志川中2年) 大城日向子 (宜野湾中2年) 大城麻優見 (神原中2年) 神谷 絵菜 (与那原中2年) 木原 智恵 (具志川中3年) 長浜 美唯 (古堅中3年)
高等学校の部 (10名)	
最優秀賞	田場 彩乃 (開邦高3年)
優秀賞	仁添まりな (普天間高2年) 崎浜美加莉 (浦添高3年)
優良賞	東江美貴子 (球陽高1年) 神村朱弥奈 (浦添高2年) 米須 紫乃 (普天間高2年) 白川 采那 (本部高2年) 宮城 滯 (首里高3年) 大嶺 茉未 (開邦高3年) 吉原 柚花 (普天間高3年)

■作文の部入選者

小学校の部 (10名)	
最優秀賞	該当者なし
優秀賞	赤嶺 丈次 (白保小1年) 新垣 貴斗 (真壁小3年) 金城かの子 (大里北小6年)
優良賞	仲間 怜央 (石垣小3年) 平田 響 (石垣小3年) 島袋 真子 (白川小5年) 伊禮 早紀 (神森小6年) 赤嶺 亜希 (とよみ小6年) 安里ひなの (大道小6年) 新垣果乃子 (西原南小6年)
中学校の部 (10名)	
最優秀賞	大城 美貴 (渡名喜中1年)
優秀賞	西平 笑香 (三和中2年) 福山 芽祝 (沖縄尚学高等学校附属中2年)
優良賞	片宗 瑠 (石垣中1年) 新垣 匠麻 (沖縄尚学高等学校附属中1年) 時田 美夢 (仲西中2年) 喜友名マリナ (沖縄尚学高等学校附属中2年) 上原 喜江 (西崎中3年) 座波 千明 (沖縄尚学高等学校附属中3年) 玉城 睦美 (西原東中3年)
高等学校の部 (5名)	
最優秀賞	該当者なし
優秀賞	森田麻優里 (糸満高3年) 座間味貴広 (前原高3年)
優良賞	玉城 旭 (向陽高2年) 知花 昌紀 (向陽高2年) 照屋香菜子 (向陽高2年)

■詩の部入選者

小学校の部 (10名)	
最優秀賞	比屋根憲太 (大里北小6年)
優秀賞	上原 晴美 (高良小5年) 嘉納 英佑 (読谷小5年)
優良賞	小浜 樹 (白保小1年) 安生 心優 (白保小1年) 新川 笑未 (さつき小4年) 我如古友香 (白川小4年) 照屋希之薫 (真壁小5年) 安里 静香 (潮平小5年) 仲村 咲穂 (真地小6年)
中学校の部 (9名)	
最優秀賞	又吉まこと (仲西中2年)
優秀賞	銘苅 勇 (仲西中3年) 東江あやか (伊是名中3年)
優良賞	儀保 智也 (仲西中1年) 池村 結華 (仲西中2年) 當山 萌 (豊見城中1年) 嘉納 佳子 (読谷中2年) 外間 匠 (豊見城中3年) 尚 はるか (沖縄尚学高等学校附属中3年)
高等学校の部 (8名)	
最優秀賞	仲地 愛 (球陽高3年)
優秀賞	金城満里香 (知念高3年)
優良賞	上原 瑞己 (知念高2年) 名嘉司央里 (普天間高2年) 伊佐 善矢 (前原高3年) 新城 琢巳 (前原高3年) 宮里 愛 (首里高3年) 吉嶺和香子 (北中城高3年)

平成21年度 第10回 特別企画展「イクサユーヌワラビ ～戦時下の教育と子どもたち～」

住民を巻き込み多くの犠牲者をだした悲惨な沖縄戦から64年が経過しました。沖縄戦前・戦中・戦後の教育、子どもたちの置かれた境遇について、調査・研究及び聞き取り調査を実施し展示することを通して、戦時下の教育と苦難・犠牲を強いられた子どもたちの諸相への理解を深め、戦争の悲惨さや平和の尊さについて再考する契機を提供する目的で本年度の特別企画展を次のとおり開催いたします。

1. 期間・場所

平成21年10月10日（土）～12月13日（日）
沖縄県平和祈念資料館 企画展示室
平成22年1月19日（火）～2月26日（金）
八重山平和祈念館 第2展示室

2. 目的

当館の収蔵資料を中心に、県内の戦前、戦中、戦後教育関連の資料を広く公開することにより、教育が子どもたちへあたえる影響力と重要性を理解してもらいます。

3. 展示内容

(1) 展示資料

展示資料は、県内の戦前、戦中、戦後の教育や子どもに関わる実物資料及び証言とします。展示構成の期間は、プロローグとして明治～昭和の教育の概要に触れ、主に1941年国民学校が発足してから沖縄戦までとします。エピローグとして米軍占領下の教育に触れ1952年4月28日対日講和条約施行により、沖縄が米国の支配下に置かれたまでとします。

(2) 展示構成（予定）

I部日本国全般とII部沖縄に分け、小テーマ6つで構成します。

◎展開の部

I部 日本の戦時下における教育

- ・プロローグ：教育勅語と奉安殿
- ・国民学校と教科書
- ・少国民と呼ばれた子どもたち

II部 戦争にまきこまれた子どもたち

- ・子どもの姿が消えた学校
- ・駆り出された生徒、戦場の子どもたち
- ・エピローグ：収容所からの学校再開

◎特別コーナーの部

体験者参加コーナー（体験型展示）映像ビデオ等の活用



今も残る奉安殿（八重山）

JICA 連携事業「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」報告

新館開館10周年を記念する事業を模索している中で、当館の「平和博物館」としてのノウハウを整理し、21世紀の平和博物館としてビジョンを描く必要を感じました。当館は戦争を住民の視点で捉える都道府県立初の機関です。この沖縄の地から世界へ平和創造の文化を伝えるために、JICAの草の根技術協力に事業提案を行い、採択され



カンボジア国立トゥール・スレン虐殺博物館

ました。5月に現地の事前調査を実施し、相手機関の状況と研修内容のニーズを把握することができました。その初年度が10月13日から11月6日までの約1ヶ月間、カンボジア国立トゥール・スレン虐殺博物館から4名のスタッフを招いて始まります。研修内容は、当館の平和博物館としての資料収集、展示づくり、学校連携の教育普及活動などで、共に平和博物館としての活動を協働することになります。同館は、1979年に開館。75年から78年にかけてのポル・ポト政権下で住民が収監され、拷問された刑務所がそのまま保存され、カンボジアの現代史の悲劇を伝える博物館となっています。沖縄戦をより客観的に見つめ、住民視点による戦争観を普遍化することにも役立つことが期待される事業です。当館にとっても貴重な人材育成の機会といえます。

友の会の活動状況

平成21年4月から7月までの活動状況は次のとおりです。

- (1) 平和講話・ガイド実績〈平成21年4月～7月現在〉
小・中・高校・その他 33団体 7,441人
- (2) 常設展示室解説委員 配置実績 延べ 79人〈平成21年4月～7月現在〉
- (3) 鯉のぼり掲揚への協力〈5月〉
- (4) 平和祈念公園愛護活動への協力
- (5) 平成21年度 友の会総会〈5月23日(土)〉
- (6) 研修会①フィールドワーク〈平成21年5月23日(土)〉
「32連隊壕・白梅の塔、上の壕、下の壕塔周辺」
②講話〈平成21年7月25日(土)〉
演題「沖縄出身初年兵の沖縄戦体験談」 講師：伊禮 進順氏



フィールドワーク（連隊壕）



伊禮 進順氏による講話

「千羽鶴の受け入れ」についてのお願い



平素より平和学習のために当館をご利用いただき感謝申し上げます。

さて、児童・生徒が平和を願って心を込めて折った千羽鶴は、子ども達の平和を希求する純粋な願いであると考えています。これは、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、世界に平和を発信する機関としての当館の理念とも合致しています。

そこで、当館では平和教育の一環として、学校等からの千羽鶴の受理についての依頼に対し、次のことにご留意をいただき受理したいと考えていますのでご協力をよろしくお願い致します。

受け入れの条件

- ①上記の当館の考え方、理念に合致する場合とします。
- ②当館を見学、利用する団体からの申し出があり、当館が対応できる場合に限りさせていただきます。

受け入れ方法と場所

- ①千羽鶴受け入れは原則として学芸員が行います。事前にご連絡をお願いします。
- ②千羽鶴受け入れは、3分程度のあいさつと受け取りとさせていただきます。
- ③館内での受け取り場所は祈念ホール、会議室で行います。それ以外の場合は、子ども・プロセス展示室前で少人数の代表からとさせていただきます。
(但し、ホール・会議室の使用は有料になります。)
- ④千羽鶴を設置、展示する場所は、子ども・プロセス展示室の入り口の横とし、設置は贈呈者の代表、または添乗員に行っていただきます。



展示期間と千羽鶴のリサイクル

- ①千羽鶴の館内での展示期間は1ヶ月程度とします。
- ②展示期間を過ぎた千羽鶴は再生紙へリサイクルするため、再生可能な材料での作成を推奨していますので、ご協力をお願いします。

八重山平和祈念館 平成21年度 事業実施報告

(1) 八重山平和祈念館開館10周年記念企画展 「マラリアと戦争マラリア」展

期間：平成21年5月28日(木)～7月2日(木)

八重山平和祈念館は、平成11年5月28日に開館してから今年で10周年を迎えました。戦争マラリアの悲惨な実相を改めて伝えると共に、戦前から戦中のマラリア被害の状況、戦後のマラリア撲滅活動、現在の世界のマラリアの状況等について、貴重な資料と共に紹介し、平和の尊さを考えることを目的として開催しました。併せて八重山平和祈念館のこれまでのあゆみと平和教育活動等の取り組みについても紹介しました。

開催期間中、平和学習の学校を中心に、2,000名を超える方々にご来場いただきました。



◎ 開館10年のあゆみを紹介

上記企画展の中で、八重山平和祈念館開館から10年のあゆみを紹介するコーナーを設置しました。設立経緯の年表や、これまで開催した企画展の図録、平和学習で来館された地域の学校の取り組みの様子などを紹介しました。また、これまでの夏休み体験学習で子どもたちが作成した巨大折り鶴や「ムシロ」なども展示し、多くの方々の目に触れていただくことができました。

10周年という節目の年に、改めて八重山平和祈念館の取り組みや活動について知ってもらう機会となりました。



(2) 「児童・生徒の平和メッセージ」展 八重山会場

●期間：平成21年7月14日(火)～7月28日(火)

八重山会場では、八重山地区の入選作品24点(図画5点、作文4点、詩15点)を含む66点の作品を展示しました。

開会式典では、八重山地区の入選者23名を招き、代表生徒による作品朗読とテープカットを行いました。児童・生徒及びご家族など合わせて100名を超える方々にご参加いただき、入選児童・生徒を激励しました。

開催期間中は、200名を超える方々にご来場いただきました。



連絡先

住所：〒907-0014 沖縄県石垣市新栄町79番地の3
TEL/FAX：0980-88-6161
URL：<http://www.pref.okinawa.jp/yaeyama-peace-museum/>
E-mail：yaeyamaheiwamararia@basil.ocn.ne.jp

慰霊の日の平和祈念資料館

6月23日（火）の慰霊の日、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が平和祈念公園で開かれ、今年も多くの方々が参列し、犠牲者に祈りをささげるとともに恒久平和を誓いました。毎年慰霊の日は常設展示室の観覧を無料にし、開館時間を午後6時まで延長しています。今年は4,600人も観覧者が入場しました。展示室ではおじいさん、おばあさんがお孫さんと一緒に資料を観覧し、子どもたちが体験者の話に熱心に耳を傾けている姿が見られました。

この日館内では、当館主催の「児童・生徒の平和メッセージ展」「子ども・プロセス企画展：子どもたちと沖縄戦」「慰霊の日・ビデオ上映会」「平成20年度新収蔵品展」などが開催されました。また、糸満市教育委員会による「読み聞かせ会」も行われ、来館した方々は様々な展示や企画に参加し、平和への願いを新たにしました。

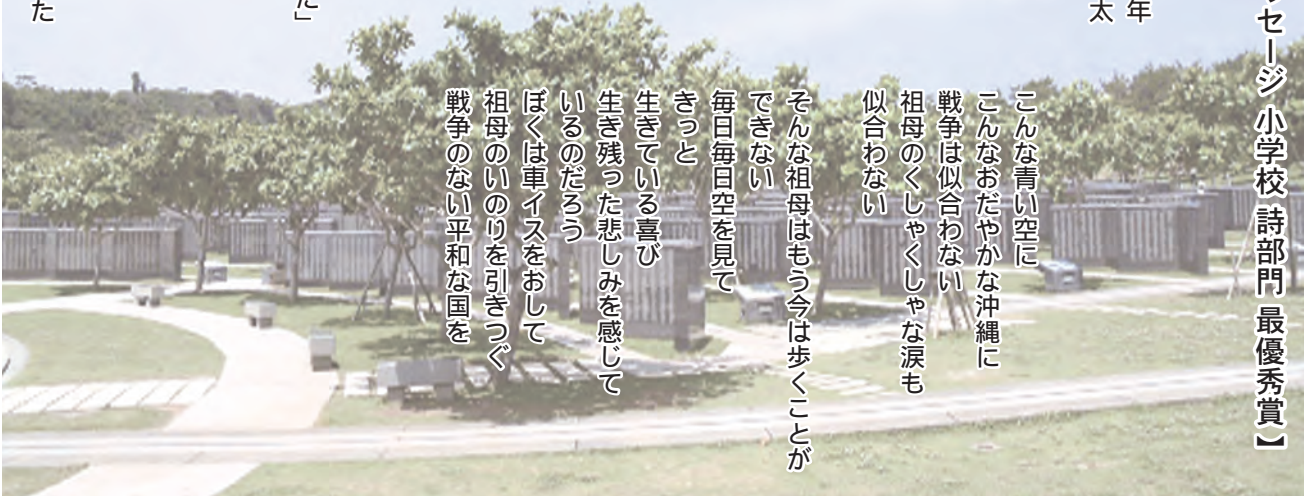


【第19回児童・生徒の平和メッセージ】小学校 詩部門 最優秀賞

南城市立大里北小学校 六年
比屋根 憲太

石に刻まれた家族の名に
涙を落とす祖母
なんの形見も残っていない石に
声にならない声で
石をさすり
石をだきしめる
小さな声でとても小さな声で
「本当は話したくないサー」
少し首をかしげて
空を見上げる
人さし指の大きさの大きな傷
あごと左腕に残る
戦争の傷あと

祖母は傷の手当てをするために
水くみに行った
防空ごうに姉を残し 母と二人で
そのあとすごい光と音が…
そのまま姉はもどらなかつた
「いっしょに連れて行けばよかった」
「ごめんね ごめんね」
と何度も何度も
きたときよりも
石を強くさすり
石を強くさすり
石を強くさすりしめる
ぼくはもう声を上げて泣いていた
そして祖母の背中をずっとさすった



こんな青い空に
こんなおだやかな沖縄に
戦争は似合わない
祖母のくしゃくしゃな涙も
似合わない

そんな祖母はもう今は歩くことが
できない
毎日毎日空を見て
きくと
生きている喜び
生き残った悲しみを感して
いるのだろう
ぼくは車イスをおして
祖母のいのりを引きつぐ
戦争のない平和な国を

資料のご提供について

戦後64年が経ち、戦争を知らない多くの戦後世代へ、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくためには、戦前、戦時中、終戦後の資料等がますます重要な役割を果たしていくこととなります。このような資料をお持ちの方、貴重な思い出の品々かとは存じますが、ご提供をたまり、今後活用させていただきますようお願いいたします。

ビデオの貸出について

当資料館では、「沖縄戦体験者証言ビデオ」全28巻の貸出しと資料館制作の沖縄戦ビデオ「そしてぼくらは生き残った」「やーさん、ひーさん、しからーさん ー集団疎開児童の証言ー」のビデオの貸出しを行なっています。どうぞ、事前学習等でご活用ください。

見学するにあたって学校等への協力願い

当館では来館者が安全で快適な見学が行えるよう、次のことについて、ご協力をお願い致します。

- ほかの来館者の迷惑にならないようマナーを守り静かに見学しましょう。
- 平和学習を効果的に行うために、引率の先生方も児童・生徒とご一緒に見学することをおすすめします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所：〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1 TEL：098-997-3844 FAX：098-997-3947

URL：http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/

E-MAIL：webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp